

第 2 回東区まちづくり懇話会議事録

- 1 開催日時
平成26年 9月2日（火） 午後2時～午後4時30分
- 2 会場
熊本市東区役所1階 101・102会議室
- 3 出席委員（順不同）
澤田委員、山田委員、中島委員、丸山委員、村上委員、島委員、田代委員、
下川委員、山野委員、多神田委員、早田委員、大隈委員、西原委員
13名出席
- 4 議事
 - （1）協議

東区まちづくり推進事業について

①若い力の活用について

②地域での子どもの育成について
 - （2）報告
東区民まつり2014について
 - （3）その他
- 5 閉 会

議 事

○会長

議事に入る。協議事項「東区まちづくり推進事業」について事務局より説明をお願いする。

■事務局

「東区まちづくり推進事業について」説明

※資料 1（前回の懇話会における意見に対する回答）

※資料 2（若い力の活用、地域での子どもの育成）

○会長

只今、事務局より説明のあった「前回の懇話会における意見に対する回答」について、質問、意見はあるか。

○会長

なければ、「若い力の活用、地域での子どもの育成」について議論を進めたい。まず、若い力の活用についてであるが、自治会活動への参加や課題についてどのように感じているか、学生である委員と委員にお尋ねしたい。

○委員

自治会が何をしているのかがわからないというのが一番の問題であると感じている。その部分がわからない限り、学生の自治会参加はもとより、そこで何をすべきかもわからないと思う。

また、学生の自治会費を無料にするか否かが問題ではなくて、何を手伝えるのかを知ることが重要であると思う。地域の一員として活動する場がないので、もっと周知すべきではないか。すべきことが明確になれば、若い世代の参加向上につながっていくのではないか。

○委員

若い世代が自治会へ参加しないのは、自治会費の有無ではなく、参加する意義が重要だと思う。自治会へ加入するのは、「母親世代」というイメージが強く、学生が加入するイメージではない。

前回、大学生にアンケート調査をさせてみてはどうかという意見があった。自分の経験で言えば、大学生に直接アンケート用紙を配って協力依頼したことがあるが、調査にとっても協力的であった。単にアンケート用紙を設置する方法より、同じ大学

生が直接用紙を配る方が回答率は上がると思う。

○会長

只今の話は、自治会活動にも通じると思う。情報を多く提供すれば、参加促進につながるだろうか。

○委員

まずは自治会が何をしているかを理解することだと思う。自治会参加のメリットがわからない。参加して、漠然と学生としての意見を求められるより、学生に任せられた部分についての成果を求められるほうがやる気は出ると思う。学生に対する要求の部分を明確にすることだと思う。

○委員

PTA の立場として、山野委員の意見をいただきたい。

○委員

子どもが小中学校までは、子ども会や地域生徒会などで保護者も積極的に地域と関わりを持っているが、高校生になると地域の組織もないため、同時に保護者も地域から離れてしまう。その結果、地域活動において、その年代が空洞化してしまっている。継続して地域活動をされる人もいるが、パーセンテージは低い。若い力とその保護者世代も一緒に取り込めるような活動があると空洞化せずにつながっていくと思う。

○委員

空洞化ということであるが、継続して関われる仕組みが必要と思われる。他に意見はないか。

○委員

私は子育て世代になると思うが、子どもが小学校になると防犯、安全面などで地域に関わってくるので、親の意識は高まると思う。子育て世代の親たちは熱心な方が多いと思うが、新しく転入された方たちには情報があまり伝わっていないので、そこをいかに伝えていくかということだと思う。先程の意見にもあったが、子どもが小中学校の時は意識も高まっているが、高校になると地域との関係性が絶たれてしまう。しかし、それは仕方ないことだと思う。そこで絶たれたとしても、幼児期から小中学校までの期間に循環していけば、地域が求める若い担い手としての力は継続されていくと思う。それが続けば、大学生になっても参加できる人が出てくる

と思う。そして、子育てが終って50代・60代になった時に民生委員等の自分ができる活動に参加していく循環が出来ればいいのではないか。

○会長

子育て世代の親たちは熱心な方が多いのか。

○委員

様々な事件が起きる世の中であるので、子どもの安全面など特に敏感になっている。地域の方々の目を期待して、多くの方々と関わりを持ちたいと思っているが、情報がないので誰につながればいいのかわからない。きちんと情報が伝われば多くの人が参加するのではないか。

○会長

いつも若い世代と接している委員より意見をいただきたい。

○委員

高校、大学になると地域を離れる現状があり、クラブ活動している学生も忙しい。そう考えると所謂「帰宅部」の学生を取り込むのはどうだろうか。それぞれの地域で文化やスポーツ等のクラブ活動が存在するならば、地域と若者を結びつける「接着剤」になるのではないか。それが新しい種になればと思う。

○会長

それぞれの世代から意見をもらったところであるが、小中学生までは地域とつながっているが、高校になると離れてしまい空洞期間が出来るとの意見であり、若い力の活用は難しいと感じる。地域が若い力に期待することについて、意見をいただきたい。

○委員

地域で何が行われているかわからないとの意見があったが、そのとおりであると思う。具体的な地域活動の例としては、まつり、どんどや等のイベントになると思う。そこで、若い力に期待するのは、実行力、新しいアイデアの提案、まつりと言えば物品販売や出し物などについて実行してもらいたい。このようなテーマを与えれば若者の参加促進につながるのではないか。

○委員

大学生と地域がどの様につながるべきなのか、根本的に考え直さなければ進まな

いのではないか。東区には大学があるので、区で「学生連絡協議会」の様な組織を設置し、学生の代表者による地域活動へのかかわり方についての協議を行い、地域活動に参加させてはどうだろうか。

また、大学生になればボランティア活動に興味もあると思う。海外旅行をして見聞を広めるのもいい経験になる。しかし、地域では中学生までしかボランティアに参加しない現状がある。今は国際化時代と言われているので、区が主催して年に1、2回「国際学生交流会」の様なことを行ってみてはどうか。そこに校区の子ども達も参加させる。子どもの時から海外を知るということは、これから大人になる過程において重要なことだと思う。そういったことも含めて、学生との対話の場を区で設けてはどうか。

○会長

学生の「連絡協議会」を設置し、そこを母体とするイメージということであるが、他に意見はないか。

○委員

私が15年程前に自治会長をしていた頃の話であるが、夏まつりを開催しようという提案が出た。その当時、PTAなどの若い世代がほとんど参加しておらず、随分と働きかけをしたが、活動参加へはつながらなかった。10年程経過した頃に公民館活動が活発になり、公民館が手狭となったため、増築するための資金調達をどうするかという話になった。その時に子育て世代の方々が中心となってボランティア委員会を結成し、町内リサイクル活動に取り組み始めた。これがきっかけとなり、若い世代が地域活動の中心となってきている。

○会長

何か目的があり、それを達成する過程において、地域の協力体制を築いたよい事例であると思う。

○委員

学生が地域活動に参加しないのは、地域から若い人への呼びかけ方がわかっていないからだと思う。私の地域では、敬老会に大学生をよんでジャグリングの披露など地域行事に参加してもらった。今年は、民生委員児童委員協議会で子ども達を集めて勉強会を行うことになり、学生に先生をお願いした。学生のサークルをお願いして、サークル内で学生同士で呼びかけると話もうまく広がっていく。学生サークルをうまく活用できれば、若い力の活用も難しいことではないと思う。

○委員

学生の連絡協議会という意見が出ているが、各校区毎に若手を育成しようとする
と、現時点においては力不足であると思う。そこで、大学生を集めて連絡会を作っ
て、自分達は区で何が出来るかを協議させてはどうだろうか。また、例えば区民ま
つりで学生協議会に広報活動、物品販売など何かブースを任せてみてはどうか。受
動的ではなく能動的なテーマを与えて、自分たちで率先してやっていく。そこで東
区各校区には様々なまつりがあり、困っていることがあるということを知る機会に
もなる。後は、学生同士がラインでもフェイスブックでもいいので、今あるソーシ
ャルネットワークを使って市内の学生に呼びかけて集まってもらい、自分達で活動
していくかたちがいいのではないか。

○会長

委員の意見にあった民生委員児童委員協議会に学生が何か関わっているのか。

○委員

看護学生が単位取得のために地域活動に参加しているようだ。

■事務局

保健子ども課には、保健師、栄養士、歯科衛生士になるための学生が、地域保健
活動実習の一環として来るので、その際に子育てサークルや地域で企画されている
高齢者サークルなどに参加している。

○委員

地域でも十分な対応をしたいので、学生達が地域サークルなどに参加する際は、
早めに教えてもらいたい。

○会長

集約すると、個々の学生に情報提供するのではなく、委員会やサークルといった
学生の集まりに対して情報提供し、そこを窓口として地域に関わっていくと学生の
地域活動への参加促進につながるといった意見のようである。

○委員

先程の意見にもあったが、小学生の時は親も子も地域活動に参加するが、中学生
になると地域活動より、クラブ活動が忙しくなり参加出来なくなる。そういった面
を考えないといけない。

○会長

子ども会は親が参加するから子どもも参加するのだと思うが、実際はどうか教えてほしい。

○委員

自分の地域では、子ども会の保護者会会長達も自治会に入会しており、自治会の方々と一緒になって行事を企画するので、そこに子ども達も参加するというのが自然であると思う。

○会長

小中学生に企画を任せるのは可能なことであるか教えてほしい。

○委員

中学生は地区生徒会があり、地域の方々と話をしてボランティア活動の決定などもしている。

○委員

大学生に学園祭の出し物を地域のまつりで披露してもらうのはどうだろうか。そこから学生とのつながりも出来るのではないか。

○委員

現在の学園祭の出し物は半分プロが行っており、そのまま地域に持って来るのは難しいと思うが、郷土色が強いものもあると思う。問題は、それを地域で披露する体制があるかということだと思う。

○委員

学生本人が地域で披露してくれるとインパクトがあると思う。

○会長

学園祭に出店しているのは、こういった方々なのか。

○委員

自分の大学では大半が学生であるが、一部のブースは県外の業者なども出店している。また、出し物については学生中心であるが、プロにお願いしている部分もある。

○会長

意見を集約すると、様々なものをつなぎマネジメントする集団が必要と思われる。

○会長

「地域での子どもの育成」について協議を行いたい。今の子ども達は家でゲームやラインといった感じで、外で遊ぶなくなっている。友達と遊ぶことや地域の方々とふれあうことは重要であるとの意見も出ていたと思うが、子ども達を地域に関わらせる仕組み、外で遊ぶ環境はどうしたら出来るか意見をいただきたい。

○委員

月に1度、江津湖清掃のボランティア活動を行っているが、子ども達の参加を促すために、学校へ依頼して校内にチラシを毎月掲示してもらっている。また、中学校より依頼されて環境問題についての話をするなどPRをしている。江津湖清掃のボランティア活動は参加者も多く、1時間程度の活動であり、遊びで参加してもいいと思う。

○会長

学校との連携をひとつの糸口とするということ。

○委員

現在、江津湖清掃のボランティア活動に画図小学校の生徒約80名の参加がある。大人になってもその経験を生かしてほしい。

○委員

健軍校区には子どもを守る会があり、今年の7月11日で10周年を迎える。202名体制で見守りを行っており、交通安全指導、不審者対策も行っている。小学校では、5月頃に、新一年生との対面式、交通安全教室、11月の教育の日に、授業参観で3年生が、子どもを守る会を取り上げた道徳の授業を行い、その際には、ゲストティーチャーとして参加し、子どもを守る会の活動について道徳性を高めるよう話している。その他、1年生との伝承遊びや6年生との感謝デーなど子どもを守る会も参加し、地域と子どものふれあいが進んでいる。学校などそのような計画を立ててくれることが大事だと考える。

○委員

画図校区には、子どもを中心とした活動が3団体ある。大綱引きを行う子ども育成会、田ん中サッカーや地域の青少年の防犯対策を行う青少協そしてPTAがあ

る。

子育て支援について、大事だが、情報は全て民生委員が中心になり、自治会と横をつなぐ情報が不足している。自治会ルートだと情報が降りてこない。民生委員は厚生省の管轄で守秘義務により簡単には情報はでない。

子育て支援を校区全体で取り上げる際は、民生委員と自治会の一体感や問題をどう共有するかを検討するかが課題になる。

また、自治会、民生委員、老人会に問題が集約されているので、そこを軸として組織運営をどう効率的にしていけることが大事。東区でも検討していただくから期待している。

○会長

民生委員と自治会の連携を進めていくことが議論のテーマになってくる。

○委員

東区内でも子ども会の構成が違う。私の校区では、子ども会は各町にあり、それを総合する連合会が、町ごとに一年単位で変わっていく。6年生になると役員になり6年が終わると役目も終わり、また新しい6年生が次の役員になる。小学校は小学校、中学校は中学校でしかつながりが出来ない。この枠にいて、この中で考えていかないと、ここには、子供会自体を知らない委員が多い。組織の基本、そしてどう子どもを育てていくかお互いを知り話し合っていくことが必要。

○委員

なぜ今は子ども会長を大人がしているのか。子どもに自主性をもたせるなら子どもがすべき。どんどんやや夏休みの朝のラジオ体操も以前は子どもがしていた。自分ができる部分を大人がしていて、それで自主性を持たせようとしているのは論理が逆点している。そこを変えていかないといけない。昔は、町内ごとに子ども会長がいて大人はサポーターであった。今は子どもがおきざりになっている。意思の持つ子どもにするなら大人はサポーターで選手ではいけない。

○委員

その通りだと思う。大人主導で地域に関わっている。

先ほど会長がおっしゃった子どもたちの居場所づくりについてだが、PTA に対しての教育委員会や教育環境に対する要望のアンケートでも子どもの居場所がないことが課題にあがってくる。今は公園でボール投げができなかったり、放課後や土日には学校に入ってはいけないなど子どもたちの居場所がなくなり、家にこもりがちになっている。そのため、子ども同士のコミュニケーションがなくなり、親が

かりになっているように感じる。ハード面を充実して自然に集まり自然に遊べるようになれば変わってくるのではないかな。

○委員

いつの時代からかわからないが「あれもこれもしてはいけない」言葉が出てきた。それが一つの要因になっているように感じる。今は小さい子がたくさんいる。昔は、遊びは何でもしていた。

○委員

先輩、後輩の役割を親がしているように感じる。

○委員

親が先回りして阻害していても、その子どもたちが社会にでても自立しているかといえはしておらず、ニートやひきこもりが多いのが現実。また、公園については、朝からグラウンドゴルフのため使えず、子どもたちが掘り起こすとグラウンドゴルフが出来ず怒られるなどしがらみもある。

熊本市にはプレイパークが結構ある。怪我は自己責任の文言のもと思いっきり遊べる。知って活用するのも一つの手段と考える。

委員が言った様に子ども会長を皆さんが受け入れていけばベスト、自主性が育っていくのかと考える。

○会長

東区にはプレイパークが長嶺にあると思うが。

■事務局

東区内には3箇所ある。

○委員

私の地域では、ゲートボールが個人の喧嘩で少なくなっている。その一方で子どもたちが遊んでいるが、欠点もあり、掃除をしなくなって落ち葉だらけになった。いい面も悪い面も両方ある。

○委員

野球の試合を行ったところ熱中症にかかった子どもが何人かいた。ゲームで寝ていなかった。そういう子はたくさんいると思う。

○委員

尾ノ上校区では、子どもに役割を与える。例えば尾ノ上まつりについては、ポスターを子どもに作らせたり、展示場に貼る標語や俳句も子どもに作らせ、選考までさせたりしている。

また、お手伝いをしたいと言ってきた子どものたちにわんわんパトロールを作り、飼い犬を朝晩散歩させる時に子どもと犬に防犯グッズを着させて散歩させている。すると子どもたちは誇り高い表情をしている。そのようなことに取り組んでいる。その一方、私たちは印刷代などお金の部分などで助かっている。

○会長

子どもの自主性を高める、ハードが必要、あるいはやり方の意見がでた。

○委員

東区の課題は歴史あるなしなど校区によって様々な事情があり、不均等にならないをえない。

子ども関係では、小学校の問題がある。学校規模適正化の答申を読んだが、問題点が鮮明にされており内容に感心した。

画図校区は、市内最大の大規模校になると予測している。その時にどのような仕組み、制度になっていくか明確化されていない。緩衝地帯をもうけて校区を見直すとはでているが、根本的な解決の新たな小学校は人口減で作られない。結果、何が起きているか、小学校児童は増え、新しい人がたくさん入ってくる。新たな人は30代の若い人で共稼ぎ。そのため育成クラブが急激に増えている。3年までなら待機できるが、超えると家に帰ってくる。居場所がまわりにない。どこに行ってもいかならない。大人として答えを出さないといけない。教育委員会は管轄じゃないと言われた。しかし、使わない農地に開園運動場作り、放課後遊ばせるなど市全体で考えていかないといけない。人口の増減はばらばら、増えているところは集中的に対策を考えないと解決していかない。

○会長

公園やプレイパークについて、子どもたちが活用していくためにはどうすればいいか。

○委員

公園に制約があるのはわかるが、ある程度ボールが外にでないなら容認すべきではないか。フェンスを作るなどしてそこだけはいいいよというのも必要と考える。

○委員

幼児から中学生までいる。サッカーボールが幼児に当たる心配があり、私は違うと考える。

○委員

公園が小さいと新興住宅で近所に家があり、寛容な方もいるが様々な人がいる。

○委員

大きい公園ならいいのではないか。子どもと大人の使う時間を分けている。小さい子と高学年の使う時間を決めてはどうか。

○委員

現実問題、私の地域の公園は、利用せずに草が生えている。市に草を刈ってくれと依頼しても外注なので予算上そのままの状態になる。そうすると子ども遊ばない。

○会長

子育て世代はどうか。

○委員

校区で予算が組めるのであれば、プレイパークを知ってもらい親子で利用してもらうように促してはどうか。公園については、町内で遊び場を見直す際、自主的に草刈するのかシルバー人材に依頼するのか検討してみてはどうか。

○委員

提案であるが、学校近くの農地を借りて広場として開放するとよいと思う。農地はたくさんあるので、買わなくても借りればいいのか。

○委員

広場で遊ぶのが楽しいと思わせるには、どうすべきかというところが難しいと思う。本来、子どもは遊びが仕事である。広場でどういう遊びをすれば楽しいかを我々が提案しなければならないのではと思う。

○委員

放課後に学校に入ったらいけないのか。

○委員

入れない。基本的には土日も入れなくなっている。

○委員

私が学校時代に聞いたのは、誰もいない放課後にトラブルが発生した場合の対応関係があるからとのことであった。

○委員

基本的に自治会や青少年育成協議会等が学校を使用して何かする場合には、積極的に開放するというスタンスになっている。

○委員

ひとつは学校と地域とのコミュニケーションが大事であると思う。お互い信頼関係があれば、何かあった時に我々も学校を責めるだけということはないと思う。

○委員

秋の交通安全が始まるということもあり、子どもとお年寄りの命を守ろうということを基本として各地区の会長を集めて話をする。熊本にも危険ドラッグを販売しているところがあるようなので、そういった内容を話したいと考えている。

○会長

様々な意見が出たが、プレイパークの活用、学校と地域の連携などいくつかヒントになるものがあった。今回の意見をふまえて次回以降にさらなる検討を進めたいと思う。それでは、本日の協議についてはここまでとする。